

---

# 凜とした泣き虫さん。

安仁屋

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

凜とした泣き虫さん。

### 【Nコード】

N6320T

### 【作者名】

安仁屋

### 【あらすじ】

温かくて、ほっとするような日常を望んでいて、それがこんなにも難しいなんて思わなかった。

ある日突然現れた不気味な奴は、私にしか見えないようだ。

## 泣き虫

今日、私は元気がない。

最近の私はいつも元気がない。しかし今日は最近で一番、元気がない。

昔からこうだったわけじゃなかった。

幼い頃は割と目立ちたがり屋だったし、リーダーシップをとることだってあったのだ。

いつからだろう、こんなに弱い人間になったのは。

目が廻るのも気にせず、勉強机の椅子に座ってくるくる廻る。

部屋の景色が全部混ざって、黒になって、吐きそうなほど眩暈がする。

人と関わらない生活がしたいなんて思う冷めた私の頭が溶けていく。

些細なことで臆病になって、結局何もできやしない。

人に嫌われるのが怖いから、私は教室で毎日醜い笑顔を向ける。

今まで“趣味”だと言ってきたことも、いつしか重荷になっていった。

今の私の日常はずっしりと重く、暗い。

昔からこうだったのか？ 違う、私は。もっと、昔は、もっと。

キィ、と音をたてて椅子が静止した。

今日、初めての失恋をした。

冷静に考えれば、本当は恋をしていたのではなかったのかもしれない。

“好き”は、自分のものにしたもの。

“憧れ”は、見ているだけで満足するもの。

でも、私は見ているだけでは満足じゃなかったように思う。

かと言って、自分のものにしたとは思わなかった、ような気がする。

友達が多くて、面白くて、誰とでも楽しそうに話すあの人は、私とは正反対のようだった。

周りの誰とも違う、なんだかとても変わった人だった。

そんな彼に憧れの感情を抱いていたのは確かで、だぶん、私は彼のことが好きだった。

失恋というのはフラれたわけではなく、相手に彼女ができたのだ。もちろん私には彼に告白する勇気など持ち合わせていない。そもそも本当に好きかどうかさえ謎であった。

そう、私は自分の気持ちさえわからないのだ。

今は、昔のように目立ちたいなんて思わなくて、むしろ目立たない生活を望んでいた。

特別幸せなわけじゃなくてもいい。でも安心できて、恐怖のない居場所が欲しい。平和で温厚な日々を送りたい。

それだけのことが、こんなにも大変で、難しいだなんて。

少ないけど友達はある。

でも、よく不安になる。私には貴方しかないけど、貴方にはたくさん友達がいる。

私は臆病だから、自分をごまかすことしかできない。本当は、貴

方の事を信頼していないのかもしれない。

私はいつたい、どれくらい多くの人物になるんだろう。

ちっぽけな私がどうなったところで、世界どころか他人は興味がない。

結局私は何者になりたいのかわからなくて、ああ、正体のわからない感情に息が詰まりそうだ。

喉元から情けない声が漏れる。冷たい涙がポタポタ、机を濡らした。

(うわ、うわ、何これ。かっこわるい)

そういえば、泣き虫だけは昔からだった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6320t/>

---

凜とした泣き虫さん。

2011年10月8日18時06分発行